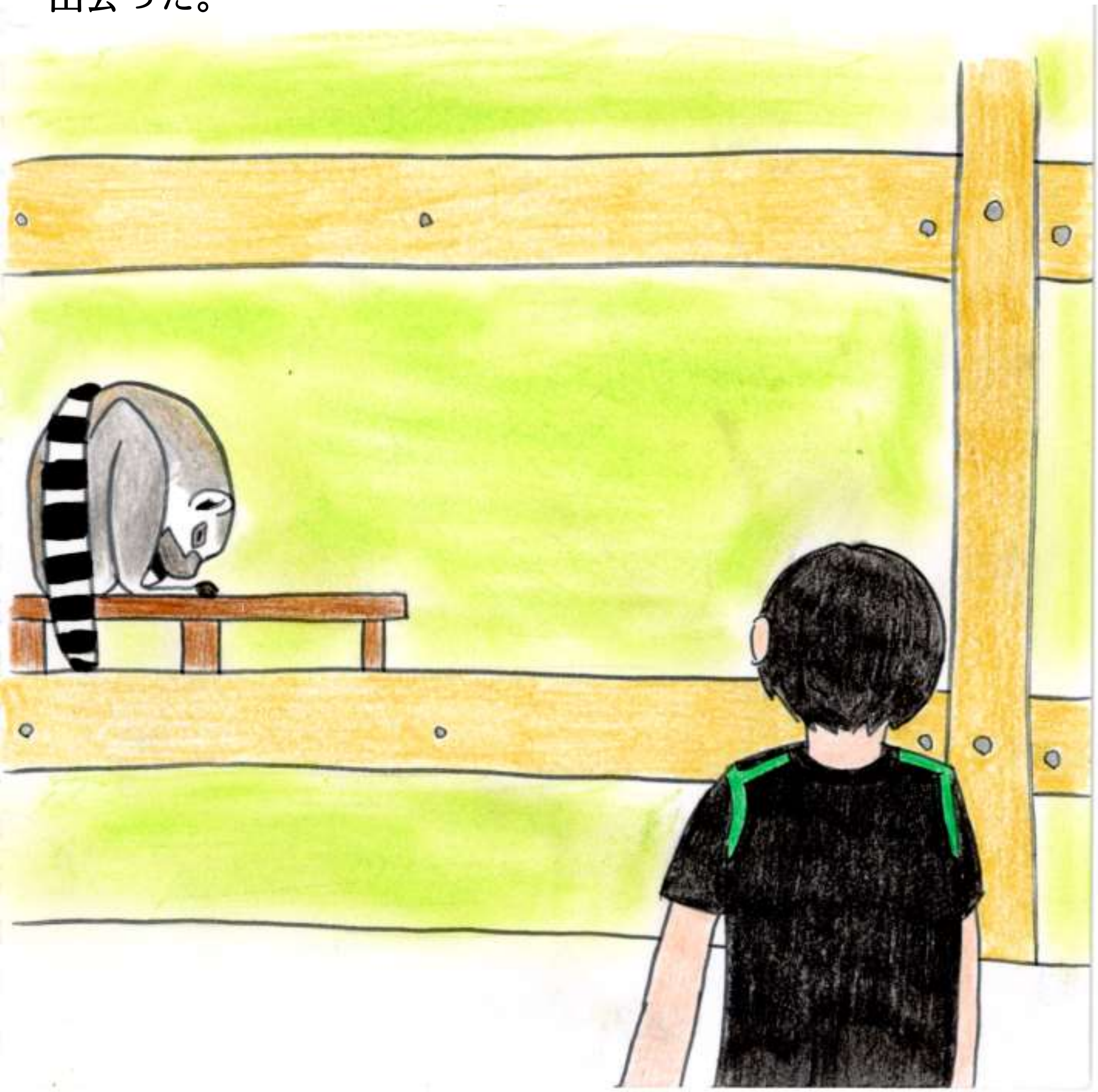
ワオキツネザルの

レンネットが教えてくれたこと

「今日は博物館実習生として飼育実習をする日！

飼育員さんはどんなことを考えながら動物たちのお世話をしているんだろう？」

飼育実習の中で、ぼくはレンネットというワオキツネザルと出会った。



レンネットは病気で目にガンをわずらっていた。

ぼくが会ったときには、すでに症状が進んでいて、
両目がてきしゅつされていた。

レンネットはいつも丸くなってじっとしていた。

レンネットはミツオとレジーノという
2頭のワオキツネザルとくらしていた。

ミツオとレジーノはレンネットに毛づくろいをしてあげたり、
3頭で体を寄せ合ったりしていた。

飼育員さんは、

「隔離すればより良い治療を受けられるけど、それよりも
　他の個体とくらすことがレンネットにとっての
　しあわせなくらしだと考えたから、優先したんだ。」

と言っていた。

「霊長類は種ごとにさまざまなコミュニケーションがあり、
群れでくらしているんだ。
ワオキツネザルの群れには、複数のメスとオスがいて、
メスの順位の方が高いんだ。」

「ミツオとレジーノがレンネットにしていた行動もコミュニケーションの一つなんですか？」

「そうだね。ワオキツネザルが他の個体に対して、
毛づくろいをしてあげたり、体を寄せ合う行動。
これは仲間の個体としかおこなわない
コミュニケーションなんだよ！」

「でも、ワオキツネザルのコミュニケーションは
友好的行動だけじゃないんだ。」

「ワオキツネザルの群れはメスの方が強いから、
メスはオスに対し、食料や休憩場所を
取り上げてしまうことがあるんだ。」

「一見マイナスな印象をもってしまうけれど、
お互いの優劣や子育てのことを考えると
群れの安定につながっているんですね？」

「そのとおり！」

「ワオキツネザルは仲間とコミュニケーションを通して、社会を作り上げているんだ！だから、レンネットのような個体も群れの一員として受け入れてくれるんだ！」
「たくさんのことを学べたから飼育実習をやって良かった！！」

これを読んで日本モンキーセンターに来られる方へ、
日本モンキーセンターには他にも野生では生きられないような高齢個体や体の不自由な個体が群れの中でくらしているよ! 例えば、ワオキツネザルのレイコ。野生では寿命が 18 年くらいと言われている中、現在 30 歳！ フサオマキザルのカーリーは左肘から下がないけれど、元気に群れの中でくらしているよ！
これからは元気な個体だけではなく高齢や体の不自由な個体にも目を向けてみてね！